

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第5回観光振興ビジョン策定検討委員会
2. 開 催 日 時	平成30年3月1日（木）午前10時～午前11時20分
3. 開 催 場 所	松阪市役所5階特別会議室
4. 出席者氏名	（委員）◎ 川口正人、○ 竹川博子、吉田悦之、竹川裕久、 下釜恭道、木村秀之（◎委員長 ○副委員長） （事務局） 柳瀬勝久、榊原典子、近田弘之、田中新也、八橋友香
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0人
7. 担 当	松阪市産業文化部観光交流課 TFL 0598-53-4196 FAX 0598-22-0003 e-mail kank.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

1. 新ビジョンの最終案について
2. その他（観光交流拠点施設本館の名称について）

議事録

別紙

第5回松阪市観光振興ビジョン策定検討委員会 議事録

○日 時：平成30年3月1日（木） 午前10時00分～午後11時20分

○場 所：松阪市役所 5階特別会議室

○出席者：（外部委員）

竹川博子、川口正人、吉田悦之、竹川裕久、下釜恭道、木村秀之
（庁内関係課長等＝事務局）

柳瀬勝久、榊原典子、近田弘之

○事務局：観光交流課 田中新也、八橋友香

～開会～

1. 新ビジョンの最終案について

2. その他

（1）観光交流拠点施設本館名称の最終案について

（2）今後について

ビジョンの製本印刷、200部予定
市ホームページに掲載

事務局：おはようございます。お忙しい中ご出席頂きありがとうございます。それでは第5回松阪市観光振興ビジョン策定検討委員会を開催致します。本日は傍聴の方はいらっしやいません。それでは川口委員長よりよろしくお願い致します。

委員長：それではみなさん、よろしくお願い致します。今日は強風の中ありがとうございます。いよいよ第5回目、みなさん最終のまとめになります。また、パブリックコメントを頂いているので、ご協議頂くこととなりますのでよろしくお願い致します。それでは、事項の1番のビジョンの最終案についてのところですが、前もって皆さまのところに観光振興ビジョンの冊子とパブコメについての資料がいつていると思います。事前に配布していますので、考えてきて頂いていると思いますが、こちらもまず事務局の方からご説明頂きたいと思致します。

事務局：前もって送付させて頂いた資料1、2、3とございます。すべてA3のものでございます。1は意見募集のまとめで、9名の方からの35項目でございました。資料2は文教経済委員会の委員さんの意見でございます。資料3はその他、それ以外の事務局や関係各課で気づいたことや、指摘のあったその他の修正箇所でございます。それらにつきまして、あらかじめ軽微なものについてはビジョンの方へ修正案として反映させて頂いております。ビジョンの冊子をご覧ください。修正をしたところの主なところをご紹介します。3、4ページですが、図1、2の年が23から28年へ、年度の範囲が23から28ということで範囲を合わせさせて頂きました。それから11ページ、パブリックコメントの中で（驚き）って何ですか、という問いがあったので、赤の方で観光客についての驚きとは写真や動画では伝えきれない松阪の深い魅力、たとえば歴史・文化的な背景やストーリーを知ることであるため、という驚きの説明を追記させて頂きました。13ページ、経済効果における課題の、「また、」のところ、特性というのはどんな特性なのか、もう少し考えなければ、という意見がありまして、追記しました。まちなかには地元産品を満喫できる飲食

店が数多くあり、駅付近の便利な場所にも、自然豊かな郊外にも宿泊施設が多数あります、こういうのが松阪の特性です、というのを追記させて頂きました。

17ページ、昔と今をつなぐ観光振興ビジョンのうちの具体的戦略の豪商のまち松阪を楽しむ観光環境の整備、観光交流拠点の整備と活用というところがございますが、議員さんのご意見より、もう少し、観光交流拠点がせっかく建つので、もう少しこし大きく、これを核に、いろいろ幅広い活動をやっていくんだ、ということを出していくのはどうか、というご意見がありましたので、記述を拡大、とともに、ページを2ページにわたって記載させて頂いたところがございます。20ページ、赤字になっている、パブリックコメントの意見の中で、こういった英語での表示、カタカナでの表示は誰にでもわかりやすいようにカッコ書きをした方がいいのではないかとということで、ICTの説明として情報通信技術というのを追記させて頂いております。23ページ、3行目、遊びと健康をつなぐ観光振興ビジョンの中の、自然を楽しむ観光の推進の長期計画のところがございますが、3行目の国の天然記念物、中村川のネコギギの生息地や、というところですが、ご意見の中で、天然記念物のようなものは生態を崩す可能性や、ネコギギが減少する可能性もあるので、観光の視点ということでこちらに載せるのはどうか、というご意見があったため削除させて頂きました。それから、下の、さらに、書きのところですが、庁内から、スポーツの関係とも結びつける文言を入れてはどうかということで、さらに今後スポーツの分野でも国体などで盛り上がり期待される有望なスポーツイベントが計画されており、これらを観光資源としてのポテンシャルも兼ね備えているものと言えます、というところを追記しました。29ページ、こちら先ほどと同じで、ICTの説明とARの言葉の説明を下に追記させて頂いております。

31、32ページのグラフについては、上段にあります、外国人来館者数と宿泊者数、薄い字は後でなおります、軸の訂正をさせて頂きました。国の年度ごとの数字でしたが、年度を軸にしまして、年度ごとの国別の数字、というふうになおさせて頂きました。以上が資料1から3の中で軽微なものとして事務局の方で反映させて頂いたものがございます。以上でございます。

委員長：ありがとうございます。パブリックコメントで意見を頂いたもの、議員さんからの意見、それとは別でその他の修正箇所ということで入れて頂いたものをご説明頂きました。このパブリックコメントは、事務局に先ほどご説明頂いたように、修正箇所というのは取り組んでもらっています。今日は最終ということですので、全体で、今事務局から説明があったパブリックコメント等のところで、修正案として入れているところもありますが、事前に見て頂いていると思いますので、この意見をここに取り入れた方がいい、などで進めさせて頂きたいと思います。ここ以外にも気づいたことがあればお願いします。みなさん、事前に見て頂いたと思いますが、5分ほど今一度見て頂いた後言って頂きたいと思いますがよろしいでしょうか。

～5分経過～

委員長：どうでしょうか。見て頂いてこの部分ももう少し加えた方が、という点があれば言って頂きたいと思いますが、どうでしょうか。

委員：全体をざっと見せて頂き、良いと思うんですが。武四郎の関係で北海道から来た方と一緒に話をしていたんですが、北海道は大自然はあるが歴史文化がない。アイヌ民族が文字を持たなかったので、武四郎が出てくるまでは全然で、武四郎さんが移動した場所にたくさん碑ができてるんですが、できたのはみんな平成になってから。ごく最近盛り上がってきた感じ。松阪は本当に氏郷、宣長、武四郎、三井、枚挙に暇がない。それぞれが進化を始めている中でどういうふうに通整理をしたらよいのか、これを見ながらため息をついていたんで、全然コメントになってないんですが。松阪の深い文化を外国の人たちにどうやって伝えていったらよいのか、考えてしまっていて。実際、外国人もリピーターで来て頂く方に何人も合って本当

にありがたいことだと思って、松阪の魅力をどういう伝え方を、どういう情報発信したらよいか、ここで作って頂いて改めて考えました。コメントになっていなくてすみません。

委員長：パブリックコメント見てると情報発信をもう少しうまく、という意見がある。

委員：さっきの話、情報はたくさんある、それはそれで、もう一点は、北海道は自然を魅力的なものとしてうまく発信している中で、我々としてもそれはすごく参考になる。飯南・飯高の方をあるいは、海岸沿いの湿地帯などをどういうふうにお客様に、特別天然記念物にはのけた方がいいのはもちろんですが、そういうのも北海道は抱えている地域なので、どうやってそれを観光資源に結び付けていくかはちょっとハイレベルな部分、でもそっちは北海道は進んでいるから、交流を深める中で、我々はそういうノウハウを吸収していきたいと感じました。

委員長：他にどうですか？

委員：本文とはあまり関係ないが、17ページの観光交流拠点完成イメージ図の中で、合成で消せるなら真ん中の電柱は消せばいいのに。ずっと残るのにこれは見た目良くないなど。合成で消せるなら見た目いいんじゃないかなど。同じく、28ページの左側のきれいなまちなみの黄色い看板がひとつ邪魔だと。

委員長：下の射和中万ですね。事務局どうでしょうか。

事務局：射和中万もまちなみの看板は消せるが、電柱の地中化っていうのは本当にかねてからの市のできなかった事業なんですけど、実際電柱は残ってしまうんです。でするので消せるのは消せると思うんですけど。

委員：イメージなんだから消しておけば。

委員長：逆にリアルにいきすぎているから。

委員：豪商のまち松阪のポスターをつくったときは、旧長谷川邸のガスメーターも消しましたよ。

事務局：消す努力をさせていただきます。

委員長：17ページの電柱と、28ページの左下の射和中万のまちなみの左側の看板を加工して頂くと。

委員：大きなところはいいんですが、11ページの驚きの定義をされているが、驚きとは深い歴史的・文化的な背景やストーリーを知る、というのはちょっと表現として、違和感があるんですけどね。というのは一般的に消費行動をしたら、はじめに注意を惹きつけて、興味を持っていく方へもっていくということで、どっちかいうとこれ、驚きという言葉だけ聞いたらすごく注意を書き立てる方だと思うんですよ。これは前に書いていらっしゃるように写真や動画が好まれているようになってきている、ってその部分だと思うんですよ。でもそれだけでは、言ったら注意をもって調べて本物的なのところがないとそこで終わってしまいますよね、その部分の話をされていらっしゃると思うんですよ。いかがでしょうか。

事務局：何か、いい表現があればご教示頂きたいのですが。極端に言って、知らなかったことを知るのが驚きだと思うんですけど、何かつながりの表現があればご教示頂きたいのですが。

委員：文章的にも、前のところから情報の羅列では興味を持ってもらえない、というところから始まっていて、どうやって注意を惹きつけて興味を持ってもらえるかっていうところなんですけど、文章よんだら、写真や動画では伝えきれないという何か否定するようなニュアンスになっているので、あまり文章を変えない、という否定するニュアンスはやめた方がいいのでは。写真・動画に加え、あとで書いてあるようなものが両面必要ですよ、というような言い方がいいと思うんですよ。

事務局：ありがとうございました。

委員長：伝えきれない、という表現をせずに、加えて、ですね。ありがとうございました。

委員：特にないが、私の知識があれなんですけど、13ページの赤のおおしてもらったところなんですけど、郊外の宿泊施設が多数あるとあるのは、多数あるんですか？宿泊施設が多数ある、というのは便利なところにも自然豊かな郊外にも多数、あるの

かなと。

事務局：4カ所くらいですかね。スメールと山林舎と茶倉と赤桶のキャンプ場というかバンガロー。

委員：スメールは犬と猫？

事務局：犬も猫も泊まれる、というだけで普通の人も泊まれると思うんですけど。

委員：どこまでが多数なのか。

事務局：多数というところちょっと大げさなのかも。ちょっと自然豊かな郊外にも宿泊施設があります、くらいですかね。多数というといっぱい10も20もあるような気がしませんね。

委員：最近言われるのが、津でずいぶんホテルできてますよね。町の中に。松阪ではちょっと考えられないくらいの規模のものが。これまで松阪は比較的ビジネスホテルなども多くてと言っていましたけど、どこまでが多数なのか。

委員：一般的に考えて4つや5つは多数じゃありません。

事務局：多数を削除させていただきます。

委員：気になったのは、パブリックコメントに対してほぼ回答はきちっとされているので問題ないのですが、パブリックコメントの数からいくと、修正されている箇所が非常に少ないので、回答されているからいいんですけど。基本的には、ここまでは本来そんなに時間かけるものではなく、これからPlan Doの次のDoの部分で、これをいかに実行計画のあるものにやっていくのかが重要なので、今後に期待。23ページの下の方の赤の、国体などで期待される有望なスポーツイベントの具体的なものは？

事務局：1つはフルマラソンをやろうというのがあってそれに向けて誘客が図れるのでそれが大きいのと、スケートボードの施設が総合運動公園の中にできてますので、そういう新しいタイプのスポーツを楽しんで頂ける方をよんでくる、それにつなげてイベントもやっていけば誘客も図っていただけるのではないかと、私を知る限りそういうのが一番大きいのではないかなと。マラソンも準備をしてから2年くらいかかるので、まだ実際に開催となると2、3年先にはなってくるが、今の市の計画としてはございます。

委員：国体のボートは？櫛田川でやりますよね。あれは競技の後に継続していくというのは？

事務局：今、この4月くらいに立ち上げになると思うんですが、飯高・飯南の方でNPOが計画されていまして、自然を使ったアクティビティを楽しむための、それを支援するためのNPOがつい最近発起されて、4月くらいに立ち上げになるんですかね。そういうものができてくることによって、他から来て楽しんで頂けるような取り組み、というのが可能になってくるのかなと。今ですと、自然はあるが各自でやって下さい、みたいな形になっているので、なんらかの受け皿が。今最近大台町なんかは、しっかりやってみえるので、そういう方向に向かっていけばありがたいかなと思うんですけど。

委員：さっき言ったように、北海道は自然をどう売っていくかについて長けている。最近、国立公園の情報会議に出席したら、北海道と沖縄の自然の売り出し方と比べると、伊勢志摩国立公園は全然ダメ、ああいう場所での発表の仕方にしても全然違う。これは伊勢志摩まで来ないぞ、と思って聞いていた。北海道や沖縄の売り出し方、映像からして全然違う。だからこそ、参考にすべきものがいっぱいある。

委員：スポーツはオリンピックもあるし、こういう分野が期待できる。これは事務局がまとめてくれたので、実際にやっていくということが重要になってくるのかなと。パブリックコメントも何人かの方が興味持っていていろいろご意見頂いてますので、実際には全体的に情報発信の仕方について頂いている部分もあるので、修正のところには入っていないかもわからないけど、こういうことじゃないかなと思います。どうでしょう、今日が最終ですので、何か言い忘れたことなど。

委員：では、言い忘れたことを。この中でまち歩き、ということがあるんですけど、この

土曜・日曜と武四郎のことがあって、記念館から今から武四郎記念館へ歩くんだと。近鉄さんもかなりチラシも配られて、リュックサックを背負った方が松阪駅を降りてると。旧伊勢街道、参宮街道をずっと歩いていくという。最終的には中川駅へということだったんですけど、イベントもいいが、白米城でもどこでも、歩いていくようなプランを推奨していけば、自販機でジュースの1本も売れますので、とりあえず大きなイベントも、自然もいいが、もう少しまち歩きと自然の間にあるような、今の方はJRや近鉄さんならよくおわかりだと思うので、駅から12キロや15キロ歩くのはへっちゃらですので、いい地図を与えてあげたら歩いてくれる。イベントは正直、本当に松阪のまちのためになるのかなと。それよりまち歩きをもっともっとそれこそ、歩くとなると公共交通機関を使わなくてはいけないので、使ってもらい、飯高の飯南の珍布峠などを歩くとか、ということにもなっていくので、そういう面でも松阪の方も知恵を出してもらおうとおもしろいかなと思います。

委員長：ありがとうございます。そういう意味でもまち歩きのプランっていうのも、歴史もありますけど、いろんなパターンが出てきます。パブリックコメントの中でも、歩いて楽しい道づくりも、まち歩きにつながっていくんじゃないかなと思います。

事務局：ビジョンなのでこれでいいと思うが、一点だけ、地図がついていれば他の方もわかりやすいかなと。エリアがよくわかる。街道や奈良県からのアクセスがどうなっているかなど、松阪がどういう位置づけにあるかがなかなか地勢学というか、よく分かると思う。歴史も文化も、伊勢や奈良があってですので、そういうのがあれば他の人にわかりやすいかと。ビジョンなので我々はわかるのでいいが。外向けではないのでいいんですが。

委員長：表紙とかに地図をつけるのも案としてはわかりやすく。これは表紙のイメージ？

事務局：それは可能です。これはイメージで、業者に提案してもらうのもっとちゃんとしたもの。その中で検討します。

事務局：当初、旧ビジョンを策定したときは、近い将来を先取りした記載になっていた。それを改めて見直す時に、当初のものが古びて感じてしまうように、ここ1、2年で観光の分野はすごく変わるんだなと実感しています。今、委員もおっしゃったみたいに、将来的なことを書いていてもすぐ古ぼけたものになるというので、大変な分野だなと。それでも委員の方の力も頂いてしっかりやっていかなくてはならないなと実感しましたので、どうぞよろしくお願ひします。

委員長：どうでしょう。これでみなさん、ご意見がなければご意見や修正したものを反映して、ビジョンの最終案ということでさせていただきますので。修正したものは事務局から委員さんの方へ、ですね。そういうかたちの流れになりますので、年度内で完成して、冊子として印刷していくというかたちになるのでよろしくお願ひします。そしたら1番の方については以上でよろしいでしょうか。2番の方で、その他でございます。

これも前の会までで、みなさんにご協議頂いてました、観光交流拠点本館名称の最終案ということなので、みなさん、いろいろご検討も頂いた中で、資料4、観光交流拠点施設本館名称ということで、事務局の方から資料もあげさせて頂いております。この辺を元に、今日名称を決めて頂くということでお願ひします。先に事務局から説明をお願いします。

事務局：振り返りますと、観光客にわかりやすい名前がまず1つでございまして、あえて公募をせず委員会の中で案を出して頂いたら、という市長の意見もありました。何回かお話を頂いた後、第4回の主な意見をあげさせて頂きました。市外から来た人にわかりやすいこと、松阪と書くなら漢字表記で、駅前の松阪市観光情報センターと識別ができること、外から来た人に場所がわかる方がいいんじゃないかというご意見もございました。親しみやすいエリアの名前をつけてはどうかとお城があるので、お城に関連した名前でもどうかと。それから豪商のまちという、ひとつのキーワードがこれをつけるかどうかというお話がありました。また単純な名前だとあまり観光客が興味を示さずに通り過ぎていく可能性もあるんじゃないかのご意見を

頂きました。大事なことはこれからどういう売り込みをしていくのか、目的に沿った施設の名前がいいのではないかとというご意見がございました。

その中で前回もございましたが、使用する言葉、単語を、松阪・観光・豪商のまち・まちなか・お城・まち歩きというものがございまして、その他の関連するキーワードというのは、施設の基本計画からいろいろと抜き出させて頂きました。で、2枚目にそれらのワードを組み合わせたものを事務局案としていろいろ書かせて頂きました。建物の名前というのは結びの方に、センター・館、やかた、かんとつくのが一般的でして、いろいろ聞いている中でもこのへんではないかと。あとは1から10まで出させて頂きましたけども、1と2は語尾がセンターと館の違い、ということで、あとはそれぞれの単語の組み合わせでできてくるのではないかなと、できたら候補を絞って頂けるとありがたいかなと。よろしく願い致します。

委員長：今事務局の方から説明ありましたが、資料4の方に今まで皆さんとご議論頂いたものを書いて頂いております。キーワードや使用する言葉の候補など、豪商のまち、という表記を付けるかなど、一番大きいところは駅に市の観光情報センターがあるので、ここの識別ができるようにというような、またわかりやすいということ。これについて今日絞り込む、決めるということですので、どうでしょうか。2枚目が事務局に示して頂いた案です。

委員：候補を拝見した中で、観光体験という頭のキーワードは合わないかなと。私的にはなさそう。

委員：同感。

委員：観光交流拠点の中身、特に2階の展示がどういうものをイメージされているのか。18ページにイメージ図がありますが、それによって変わってこないか。1階は物販など。要するにどういうものができあがるのか、この中で松阪市の地域全体をやっていくなら、ネーミングとして、まち歩き、とかこのあたりだけに特化するのちょっと違うのかなと。

事務局：この観光交流拠点は、まち歩きの拠点になるもの。ここに来てもらって町の、特に豪商エリアといわれるところの全体図を見て頂いたうえで、そこで関心を持って頂いたところに実際に行ってもらうもの。2階は参宮街道の賑わいや、三井をはじめ、いろんな松阪の豪商についてというようなことの説明、そういうものをグラフィックで簡単に知って頂く。また松阪の歴史、まちのことを松阪ものがたり、とかかたちで10分ほどの映像で流す、ということになっています。当然松阪全体のことにつながながら、ご紹介をするようなガイドンス施設になろうかなと思います。

委員：車で来る方も多いので、ここで情報を集めて飯南・飯高などの郊外へ行く方もいるはず。全体を紹介できるような位置づけにしていった方がいいんじゃないかなと。

事務局：ここの特色というのが、機能面でいくと、人と人、というようなかたちでのガイドンスと、それを補完するためのアレンジメントサービスという、自分なりのまち歩きマップを作りましょう、というような機能をここに持たせることがあって、このエリアの詳しいことに関心を持って頂いたところを、検索していくとその周り方が実際に地図として出せる、というガイドンスもとってこう、というコンセプトになっていますので、多分基本的にはそういう部分と。言われるように、車で来られる方のガイドンスにもなるので、それについては、市全体のことも当然紹介させて頂くことになるが、中心はやっぱりまちなかになる施設かなと考えております。

委員：あくまでも観光交流拠点ですから、松阪市の。あからさまにまち歩きにするのは、私は間違っていると思う。ここに来ればすべてが集まるというような。

委員：さっきも申し上げたように、松阪の魅力ってこの周辺だけじゃなくて、山も海岸沿いもあり、いろんなところにあるものがある。

委員：ここに来ればすべてがわかる、みたいなものを。

委員：僕もそういうイメージ。伊勢街道もあり、和歌山街道があり。車で和歌山街道を走るのも魅力的ですし。

事務局：拠点ということになれば、全体のガイダンスが必要になる、それはおっしゃられる通りだと思います。ここで作っていく展示機能は、6～7割はまちなかの豪商エリアの紹介が実際にはなるので、ガイダンスという意味で、1で観光ガイダンスをしていきますということでは、市全体の案内をする機能は当然持ちますので、飯南、飯高、松阪近郊についても案内できることとなりますが、2階ということになると、そういう部分の比重が高いということになるかと。

委員：2階は街道展示ゾーンがメインになってくるのでは。

事務局：松阪のまちなかだけでなく射和あたりも紹介するようなかたちにならないとですが、メインはどうしても、この基本計画から作ってきた中では、やはり中心市街地の紹介が一番多いのかなと思います。

委員：まちあるき、という言葉が入ってくるかどうかだと思いますが。

事務局：駅前の観光情報センターとの違い、他の方からよくわかることも非常に大切かなと思いますので、そのあたりどちらかという特定エリアを指す言葉を羅列したような経緯があって、全体となると松阪総合観光センター、などになるのかなと思うのですが。

委員：最後に本館、と付けるとか。

委員：ご紹介する立場からいうと、特色ある方がいい。どうしてもそういう意味では、豪商のまち、立地的には豪商エリアにあるというのが大きいので、豪商のまちとつける方が興味持ってもらえるのかなと。

委員：豪商のまちは付けた方がいい。

委員：正直、どれもパッとしないなと。これはビジターセンターですよ。豪商のまち松阪ビジターセンターで良いのでは。観光とか物語とか歴史探訪とか、思いは伝わんですけど、いろんな目的で松阪に来て、と考えるとすると訪問した人の受け入れ先、とした方が。館がよくないですね。物産館ならいいが。昭和の漢字がしますね。観光館とか。

委員：漢字置いといてもらうと、中国の方に非常によくわかる。

委員：観光館って、中国ではどういったことかなと思ったり。中国でも観光ですか。

委員：観光です。

委員：英語と韓国語くらいは。

事務局：ちょっと覗いてみたくなる名前がよいのでは。さっき言うと特色があるというのはやっぱりそういうことかなと。観光情報センターでは用事がないと入らない。豪商のまち松阪かなと。

委員：数年間「豪商のまち」という言葉を発信してきたわけだから、それを使わないというのはどうか。やっぱり町全体で豪商のまちっていうのはキャッチフレーズで入れておきたいなと。

委員長：豪商のまちって入れるということですね。

事務局：松阪ビジターセンター

委員：ビジタービューローもありますしね。

事務局：ビジターセンターっていう言葉だったら、大体どんな人でもこれはこんなのだな、ってわかるってことでいいんですかね。

委員長：豪商のまち観光センター。一番上の豪商のまち松阪観光センターとか。今いろいろ皆さん言って頂きましたが、まず「豪商のまち」が入るとするのは皆さんの意見としては一致していると。吉田館長のお話にもありましたけど、豪商のまち松阪ビジターセンターとか。あと豪商のまちのついている、ここでいうと松阪観光館なんですけど、館という言葉が、ということになると今言った二つくらいに絞られてくるのかなと。

事務局：今、ビジターセンターをウィキペディアで見ているんですけど、国立公園や国定公園などにおいて、その自然（地形・地質・動植物）などの情報を展示・解説し、公園の利用案内を行っている施設のこと、とあるんですけど。

委員：悪くはない。

委員長：今の2つくらいで絞り込んで。

事務局：観光センターかビジターセンターかという。

委員長：今出た、豪商のまち松阪観光センターか、豪商のまち松阪ビジターセンター。

委員：豪商のまち、とビジター。豪商のまち、とくるんですから、やっぱり日本語の方が。

事務局：拠点の施設が和な感じのものなので、横文字より日本語の方がいいんじゃないかと言ってたんです。

事務局：どのみち英語表記ってありますよね。カタカナで書いたら日本語の表記を書いとかなないと誰でもわからないと。

委員：英語の表記が並列してあれば問題ないかと。

委員長：どうでしょう。豪商のまちで切ってみるとか。

事務局：豪商のまち松阪、の方がいいのかもしれないし。ずっとその言葉を使ってますし。

委員長：どうでしょう。英語表記はまた作るということで。

委員：そういう意見だったらそれでいいと思うんですけど、市が先導して観光やっていくというときに、何のための観光なのか、何のために観光客に来てもらうのか、お金を落としてもらうためか情報をもらうためか、交流するためとか。観光交流拠点とは大事な視点だったんだろうと思うんですけどね。松坂城の中におりますと、中国の方は非常にマナーが悪い。確信犯で来る。わからない、ということで押し切ってくる。お城を見に来てくれるのはいいよなど。お城や御城番屋敷見てもらって、まあ、日本のどこに君たちは来てるのかわかっているのかどうかは別としても、来てくれるのはいいよな、というのは確かにあるんですけど。そうなってくると、一体松阪に人が来てくれるというのはどういうことなんだろうかと、考えたりするもので、これだけのお金をかけて、また維持をしていく中で、物産センターならものを売るということでいいが、交流拠点って市民から何のためのなのか、松阪に来たどんな人たちを対象として、不特定多数の人といやそうかもしれないが、団体なのか個人なのか、車で来るのか、この名前では見えにくいかな、とは思いますが、最初言ったみたいに、豪商のまち松阪というのは、外さないこれは私も思いますが、観光センター、観光館とした場合に、観光ですべてが包含できるのか、交流拠点とはどうなっていくのか、と若干疑問は残る。

事務局：じゃ、観光交流センターというのはいかがですか。

委員：それも、私たちはいろいろ意見を言ってやっているからわかるけれど、一般の人が聞いたときに、観光交流ってなると。どっかできないと。

委員長：観光センターがシンプルで、っていうことでよろしいでしょうか。

事務局：松阪市観光情報センター、条例で設置管理条例があるので、それをどうしていくかというのが、この条例をたてるときに名称を変更するのであれば変えるってことになる話になりますけど。駅前、っていう言葉が使えない。駅西とか、松阪駅とか。松阪駅観光センターとか。通称名で変えてもいいかもしれないが。確か看板は観光情報センターとあったかと思うが、条例上の名前と看板が違うということも出てくると思うので。手続き的なことは考えなければならないが。確かに、観光客の方とかご案内するときに、駅の観光センターに行って下さいっていうのと何もないのでわかりやすさは全然違いますしね。

委員：それは組織的には全然別のものになるのか。

事務局：観光情報センターも元々、市の建物ですので、両方市のものになります。

委員：だったらこの際1つにしてしまっって松阪観光情報センターにして、本館、というふうにしては。

事務局：ただ、運営は今の観光情報センターは、観光協会に業務委託というかたちでお願いしているが、観光交流拠点については指定管理者を公募するというのが現段階での方針ですので、そうなるのと全然違うところが運営するということも。

委員：それは委託という考え方ですよ。

事務局：一緒のことなんですけど。

委員：でも名前ですから。

委員：常にみなさん、どっちなの？どう違うの？という疑問が出てくるから。

委員：私もそれに賛成です。

事務局：駅は入れた方がいいかなと思いますけどね、わかりやすさということでは。

委員長：駅の方が松阪市観光情報センター駅前と本館にしては。

事務局：現在の観光情報センターの名称については、ご意見を参考にしながら、駅とか松阪駅というのを入れてわかりやすい名前していきたい。この施設ができるときに、区別がはっきりわかりやすいというのも大事なものだと思うので一年間の間に整理していきたい。最終的には条例で名称を決めますので、議会に諮りながら決定していく、ということになるかと。

委員：今のままでいくと別々になってしまうから、こういう意見もあると言ってもらったら。きちんとまとめていくなら今しかないと思いますよ。いったん決まってしまうたら無理だと思いますから、やはり整理するなら今しかない。1つにする。

委員：観光情報センターにして、駅と豪商のまちという。

事務局：豪商のまち松阪観光情報センターと 松阪駅観光情報センターということですね。それはわかりやすい。松阪観光情報センターとすると。それはひとつの考え方なので、考え方として、豪商のまち松阪観光情報センターをこっちにして、松阪駅観光情報センターを駅前の方ということで、豪商のまち松阪、観光情報センター、松阪駅、観光情報センターということですね。それをこの施設の設計をしていくにあたって、整理をしました、っていうのは理由になると思うので、言われる通り、後からまた変えるというのはできないと思うので。整理しやすい。そうすると違い、場所のすみわけ、案内のしやすさも出てくると。

委員長：そういうまとめでよろしいでしょうか。名称も決まりましたので。今後についてということで、事務局の方からお願いします。

事務局：今後については、今日頂いた意見をきちんと反映させ、再度見直しをかけて整理したものを皆さまの方に送らせて頂くのと、市の内部の決裁を経まして、今現在案のものをきちんとした製本というかたちにもっていきたくて考えております。実際つくったものについてはそんなにたくさん部数を印刷するものではありませんけど、市のホームページ、市の関係機関、関係者の方々にお配りさせて頂くようなかたちで今後の指針にさせて頂きたい。このビジョンと一緒に、このパブコメ等についても、ホームページで公開してせっかく頂いた意見について市としてこんなかたちで考えております、ということもきちんとご報告させて頂きたいと考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

委員長：今事務局からありましたように、今日のものに修正を加えて、完成したものをみなさんに送って頂くということで、今後はホームページとかいろんなところで皆さんに見て頂くということでよろしいでしょうか。これでですね、ビジョンの方5回やって頂きまして、本当にありがとうございました。私議長としてなかなか進行の方うまくできませんで、ご迷惑をおかけしました。今日も意見出ていましたけど、これを実際、いわゆるD o、やっていくところの部分が、今後重要になっていくと思いますので、私も商工会議所ですので、皆さまといろいろご協力していきながら、と思いますので、それぞれ関係のところ、今後また、より一層みなさん協力しあって、この計画がより有意義に実行していくようにしていくことが一番大事だと思います。2ページの部分に書いてありますけど、このビジョンが2020年になって、次のビジョンが2021年ということで、おそらく2年後くらいにまたこの計画を作るまた委員会ができて、またそれぞれご協力頂くこともあると思いますのでよろしくお願ひします。事務局もうまくまとめて頂きました。ありがとうございました。改めて事務局に拍手を。

事務局：ありがとうございました。本当に委員の皆さま、ご多忙の中、今回ご無理を申し上げまして、委員になって頂きまして、いろいろ議論をして頂き新しいビジョンを作って頂きました。本当に御礼を申し上げたいと思います。その中でも委員長もまた委員の皆さまの意見にもありましたように、あくまでビジョンである、ここからど

んなアクションプラン、どういうロードマップでやっていくか、今後それは私たちのやっていかなくてはいけない取り組みだ、ということで改めて思いを感じているところでございます。頂いたご意見、なかなか難航しました観光交流拠点の名前については、こういうかたちで決着することができ、本当にありがたく思っております。本当に、通過点でもあり、新たな始まりでありますので、また今後ともいろんな点で、ご指導いただきながら、お力をお貸し頂きたいと思っております。本当にありがとうございました。